

もっとアフリカを知り、経済、技術、文化の交流を促進します



月刊アフリカニュース

2014年 12月 15日 No. 26

目次		ページ
ガボン月報	1
タンザニア・ビジネスニュース	2
南アフリカ月報	2
モザンビーク月報	3
ルワンダ月報	3
お役立ち情報	4
協会日誌	5

<リニューアルのお知らせ>

2015年1月から「月刊アフリカニュース」は毎月15日発行、内容一新させていただきます。
どうぞご期待ください。

ガボン月報（2014年11月）

【内政】

- 2014年上院議員選挙実施日程の決定
- 野党によるデモ活動の実施
- UNOCA 当地代表による与野党対話促進の働きかけ
- ボンゴ大統領による労使双方との対話促進

【外政】

- ボンゴ大統領によるコートジボワール公式訪問
- ボンゴ大統領による第15回仏語圏国際機関首脳会合への参加

【経済】

- 「ビジネス環境の現状2015」(Doing Business 2015)の発表（ガボン第144位）
- IMF4条協議ミッション報告書の発表

●ボongo大統領による中古車禁輸措置の見直し

http://www.ga.emb-japan.go.jp/pdf/gabon_geppo/gabon_geppo_11_2014.pdf

タンザニア・ビジネスニュース (2014年11月)

(上半期)

- (1) 南アのレンタカー会社、タンザニア企業と提携 (サービス)
- (2) 地熱開発に関し、アフリカ地溝帯加盟国が協議 (天然資源・電力)
- (3) タンザニア憲法改正に関する国民投票、2015年4月30日 (政治)
- (4) 国際貿易センター、SIDOと共同で包装センターを設置 (農業・加工)
- (5) 新規カシューナッツ加工工場の建設 (農業・加工)
- (6) タンザニア不動産協会の設立 (不動産)
- (7) TPSF、ベンチャー・キャピタル等によるタンザニア企業への投資を促進 (投資)
- (8) 2014年繁栄指数、タンザニアは世界で117位、EACで3位 (経済・社会)
- (9) 米ミレニアム・チャレンジ公社、エネルギー分野に対し9,780万米ドルの無償支援 (電力)

<http://www.tz.emb-japan.go.jp/tanzania/news/2014111h.htm>

(下半期)

- (1) JOGMEC、加鋳物会社との間でレアメタルの共同探鉱契約を締結 (天然資源)
- (2) 鶏の羽を利用した蚊帳の研究 (製造)
- (3) 越アパレル大手 Garco10社、タンザニアからの綿輸入を検討 (農業)
- (4) 韓国の支援によるフライオーバー橋ダルエスサラームに建設へ (建設)
- (5) タンザニアのEAC域内貿易額、15億米ドル超 (貿易)
- (6) 印ヒンドゥスタン・エンジニアリング・アンド・インダストリーズ社、貨車50両をタンザニア鉄道公社に納入 (運輸)
- (7) 蘭ロイヤル・フィリップス社、アフリカ地域に家庭用調理器具を導入 (製造・家電)
- (8) ムトワラ-ダルエスサラーム間天然ガス・パイプラインの試運行は1月開始 (天然資源・電力)
- (9) タンザニアのセメント生産量、倍増見込 (製造・建設)
- (10) 英SABミラーとコカ・コーラ、アフリカの清涼飲料事業で協力へ (製造)
- (11) LNG生産開始は、2022年頃 (天然資源)
- (12) タンザニア、若年層の失業率は42% (社会・ビジネス環境)

<http://www.tz.emb-japan.go.jp/tanzania/news/2014112h.htm>

南アフリカ月報 (2014年11月)

【内政】

- e-tolls 巡る議論
- ズマ大統領の動向

- NUMSA の COSATU よりの除名
 - ラマポーザ副大統領と野党党首との会談
 - 議会運営についての与野党駆け引き
- 【外交】
- マシャバネ国際関係・協力大臣のナミビア訪問
 - 日南ア首脳会談
 - ズマ大統領のボツワナ訪問
 - マシャバネ国際関係・協力大臣のモーリシャス訪問

【経済】

- 南ア：第3四半期の GDP 成長 1.4%
- 原子力ベンダー・ワークショップの開催
- ムーディーズによる南ア国債の格下げ
- 入管法改正の南ア観光産業への影響
- MPCによる政策金利据え置きを発表

http://www.za.emb-japan.go.jp/jp/downloads/SANews/November_2014.pdf

モザンビーク月報（2014年11月）

【内政】

- 4日、国家選挙委員会（CNE）は、10月15日に実施された今次総選挙にかかる選挙結果を含むすべての関連書類を憲法評議会（CC）に提出。

【外交】

- 10日、ゲブーザ大統領は、サタ大統領の国葬に参加するためザンビアを訪問。

【経済】

- 韓国自動車メーカー・ヒュンダイ初の自動車組立工場がマトーラで竣工。
- 25日、ロブマ域天然ガス開発に関する特別措置法（Decree Law）が閣議決定。

<http://www.mz.emb-japan.go.jp/1411.pdf>

ルワンダ月報（2014年11月）

【内政】

- 3日、ルワンダ公共事業規制局（Rura）は、先月1日に放送されたBBCのドキュメンタリーに対する調査委員会を設置した。

【外政】

- 11日～13日の3日間の日程で、アフリカのイノベーションを世界に発信する会議「Glocal ; Africa's Premier Business and Innovation Convention」がキガリで開催された。

【経済】

- 4日、第11回日・ルワンダ経済協力政策協議が開催され、カンバンダ外務・協力次官

及び小川和也駐ルワンダ日本国大使等が出席した。

http://www.rw.emb-japan.go.jp/rwanda_news_2014.11.pdf

お役立ち情報

1) 『ケニアの社会経済図版 (Socio-Economic Atlas of Kenya)』の出版

” Socio-economic atlas to help in planning” November 10, 2014

<http://www.capitalfm.co.ke/news/2014/11/socio-economic-atlas-to-help-in-planning-waiguru/>

11月10日にケニアの地方権限委譲省大臣が、ケニアの社会経済地図を公開しました。この地図は2009年の人口と家屋センサスと2005/6年の家計調査の結果を纏めたものであり、47県と2000以上の市町村の所得、貧困、教育等の基礎資料が示されており、今後の経済政策の立案に大いに貢献するものである、と大臣は説明しています。

“Highlights of The Socio-Economic Atlas of Kenya”

http://www.knbs.or.ke/index.php?option=com_content&view=article&id=280:highlight-s-of-the-socio-economic-atlas-of-kenya&catid=82&Itemid=593

① 背景 9図版、② 人口分布と動態 14図版、③ 飲料水、衛生、エネルギー 8図版、

④ 世帯数と資産 8図版、⑤ 貧困と福祉 7図版、⑥ 教育 9図版、⑦ 経済活動 8図版

このページの下部にある Download の Highlight of the Socio-Economic Atlas of Kenya を開くと、ケニア統計局長による

31ページ(含む13図版)の詳細な上記項目①-⑦の説明があります。

・マスコミによる本報告書についての多数のコメントありますが、下記の二つの記事は報告書の内容を要領よく説明しています。

ケニアへの企業進出を検討するに当たり、ケニアの富の偏在、家庭の所得レベル、教育レベルなどを推定する非常に良い材料を提供していると思います。

“New county wealth list”

<http://www.capitalfm.co.ke/news/2014/11/socio-economic-atlas-to-help-in-planning-waiguru/>

“Report reveals counties with highest poverty levels”

<http://kassweekly.co.ke/KW/?p=1584>

2) ブルッキングス研究所、『アフリカの工業化についてのケーススタディー』報告書

過去40年間のアフリカの工業化は、期待はずれでした。2010年のサブサハラ・アフリカの製造業のGDPに占める割合は、約10%であり、1970年代と変わりありません。同時に一人当たりの製造業生産額は、全途上国の平均の3分の一くらいです。最近のアフリカ経済の高い成長にも関わらず、製造業の生産額と雇用の割合は1980年代半ばより低下しています。サブサハラ・アフリカの製造業製品の全世界への輸出に占める割合も1980年の0.3%から

2010年には0.2%に減少しています。何故アフリカの工業化は進まないのでしょうか。4年程前からブルッキングス研究所、アフリカ開発銀行、国連大学（WIDER）が、共同研究をしてきて、その成果の一部が2014年11月に公開されました。

“Learning to Compete Working Papers”

<http://www.brookings.edu/about/projects/africa-growth/learning-to-compete>

以下の3課題を取り上げ、アフリカ8ヶ国のケーススタディーが報告されています。今後のサブサハラ・アフリカへの製造業投資の検討資料になるのではないのでしょうか。

1 “Learning to Compete: Competition, Exports, and Productivity”

競争力、輸出指向、生産性：モザンビーク（2）、エチオピア、チュニジア、ガーナの5ケーススタディー（pdf）がダウンロード可。

<http://www.brookings.edu/research/papers/2014/11/competition-exports-productivity>

2 “Learning to Compete: Understanding Industrial Clusters”

製造業のクラスター戦略：エチオピア、チュニジア、アフリカ全体の3ケーススタディー。ダウンロード可。

<http://www.brookings.edu/research/papers/2014/11/understanding-industrial-clusters>

3 “Learning to Compete: Industrialization in Africa and Emerging Asia”

外国直接投資と輸出戦略：エチオピア、チュニジア、ウガンダ、ガーナ、タンザニアの5ケーススタディーがダウンロード可。

<http://www.brookings.edu/research/papers/2014/11/industrialization-in-africa-and-emerging-asia>

協会日誌

11月～12月15日

11月12日 「第11回大使を囲む懇談会」

駐セネガル北原大使を囲み、同国の政治・経済状況等について独立以来政治的に安定していることや良好な対日関係などを中心に意見交換を行った。

11月25日 「第3回フォーラム」

地域シリーズ第1回として東部アフリカに焦点を当て、消費財を通じて豊かな生活の実現へのコンセプトで開催、慶応大大学院岡田教授をモデレーターに、ロート製薬鈴木統括マネージャー、アフリカビジネスパートナーズ梅本共同創設者をパネラーとして、活発な意見交換を行った。

12月2日 講演会「エボラ出血熱治療研究の最前線」

東大国際保健政策学教室との共同開催にて、グローバルヘルス特別セミナーとして米国陸軍感染症医学研究所シナ・ババリ博士を招き講演会を

開催した。

今後の予定

- 12月17日 「第12回大使を囲む懇談会」
日仏会館にて14時より、前駐南ア吉澤大使との懇談会開催
- 1月15日 進藤奈邦子氏（医学博士、WHOメディカルオフィサー）講演会
日仏会館にて13時30分より、エボラ出血熱に関する講演会を日仏会館との共同開催